

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100494		
法人名	医療法人 創寿会		
事業所名	グループホーム小野鶴 つるみ		
所在地	大分市小野鶴字植木1150-1		
自己評価作成日	平成29年10月13日	評価結果市町村受理日	平成30年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・地域の自然等を感じる機会を増やす。 ・一人、一人にあった個別リハビリに力を入れていきたい。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家族の協力を得ながら、定期的に詳細なアセスメントがとられている。そのアセスメントを基に、利用者の思いを組み込んだ介護計画が作成されている。 ・子育て中の職員の勤務は、保育園送迎などに配慮された勤務時間が組まれている。 ・事業所利用開始前の掛かりつけ医の診療が継続され、専門職や職員、老人保健施設の看護師との連携により重度化や終末期支援が行われている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・昨年は職員の入れ替わりはなかったが、新人職員が入ってきましたので、その都度管理者が理念を示している。職員は利用者様が自分らしく生活できるよう常に検討・話し合いを行いケアを行っている。	事業所パンフレットに、理念・基本方針を記載し、地域の中で「その人らしく」生活できる支援を伝えている。その人らしく生活する指針として、丁寧なアセスメントがとられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・昨年同様、近隣のボランティアさんには行事の際にはお世話になり、アドバイスを頂いている。今年も小学校の運動会を見学する事ができ、先生やPTA役員さんにとってもお世話になりよくして頂いています。今年度も地区の子供太鼓に寄っていただき、昨年同様に交流が持てた。近隣の神社のお祭りにも参加させて頂き笑顔で喜ばれていた。	地域の祭りや運動会などに参加し、継続的な交流が行われている。同一敷地内に建つ法人の合同の夏祭りには、多くの地域住民の参加が得られている。元職員が事業所行事にボランティアとして協力し、ボランティアの声掛けにより、地区の防災士が避難訓練に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・会議で受けた質問や要望、指導等を次の会議に反映できるよう取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・民生委員や家族が参加して、入居状況や行事・リスクの報告を行い、改善について話し合っている。・昨年の4月より家族会を発足させ、運営推進会議の後に活動を行っている。内容としては、利用者の事だけでなく、家族の悩み等を聞き解消できるよう努めている。	運営推進会議は、全家族に案内を出し、会議後に家族会を開いている。5~6家族の参加が得られており、家族の集いとして、認知症介護者間の思いを語る交流の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・立ち上げ時から相談をしながらアドバイスを受けている。・電話での相談や運営推進会議の悩みを通して、市職員や包括の職員から意見をもらい、ケアに反映できるよう努めている。 ・制度(マイナンバー等)の事について、その都度電話にて相談している。	主にホーム長が行政との窓口となり、事業所運営のアドバイスを受けている。運営推進会議も毎回案内しており、連携に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回法人全体で研修を行い、身体拘束防止の研修を行い、身体拘束をしない介護や、身体拘束(言葉による拘束を含む)の弊害について学んでいる。毎月の合同会議や委員会で定期的に話し合っている。 ・また玄関は施錠しておらず、利用者家族が自由に出入りできるようになっている。 ・リスクに対しても入居前・入居後は、必要時に応じ、その都度家族と話し合いを行っている。 	法人の拘束研修には全職員が参加し、事業所独自に身体・言葉の拘束について毎月話し合いが持たれている。利用者の心身の状況によって課題が生じた際は、危険回避や安全な生活が送られるよう家族との話し合いが持たれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度、不適切なケアがないかの確認を行っている。 ・定期的に会議を行い、不適切なケアがないかの検討を行っている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・1年に1回 法人全体で研修を行い、参加できなかった職員に対しては伝達等を行っている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、時間をかけて丁寧に説明を行っている。その際に、事業所ですることできない事をよく説明し、理解してもらっている。 ・ご家族・利用者様の説明に対しても迅速に対応し納得していただいている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の方には面会時に御利用者様の状況も含めて多く対話するよう心掛けている。要望、ご意見などがあればスタッフで話し合いを行いケアに生かしている。 	面会時には、家族からの要望などを聞くように努めている。今年度、面会名簿や広報誌、共有空間での利用者間の座席、外気浴時の飲み物など具体的な希望や意見が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で意見を出し合い、必要なことは実践に移している。会議などに出た意見は、管理者が委員会や理事会に提言し反映している。法人トップも2年ごとに交代し、意見が通りやすい仕組みとなっている。ただ、本当の不満や苦情は言い難く、把握できてない点が多くあると感じている。 	月1回開かれる職員会議の中で、業務の見直しや利用者支援、身体拘束などの話し合いが持たれている。個々の職員間の気づきは、日々の勤務時に発言されている。法人全体で職員のストレスチェックが行われ、産業医のアドバイスを得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の疲労、ストレスが溜まらないよう、その都度勤務体制について話し合うことで働きやすい環境になるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修や法人内の情報を収集し、職員それぞれに必要なと思われる研修に参加できるように努めている。また院内研修も設け職員が全員参加できるようにしている。 ・現在1か月に1度、会議にてケアに対する疑問意見を出し合いスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・現在は行っていない。 ・今後は、学習会・連絡会等に参加していきたいと考えている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面接時に、本人と十分に話し、希望や不安に感じていることを把握できるよう努めている。・本人に了承、納得していただくように入居していただくようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族と話し合いをして、困っている事、不安に感じている事を把握した上で、当施設に対して希望する事を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時に、ご家族・本人の思い、状況を確認し、現在必要と思われるケアを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者様と一緒に過ごす中で、コミュニケーションを取りながら少しずつ関係が良好に構築できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者の様子や変化は、その都度ご家族に伝えている。 ・ご家族には、職員だけでは本人にとって満足のいく援助ができないことを理解していただき、職員・ご家族とが協力して援助していただけるよう心掛けている。 ・新規若しくは、あまり面会に来られない家族に対しては、職員と家族の想いの差があり、時間をかけて関係構築を行っている。 ・その都度、ご本人により良い生活を過ごしていただけるよう家族と職員間で意見交換し検討を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・隣接の老人保健施設から馴染みの友人が訪ねて来たり訪問したりしている。また、面会が多く昔から親しい人との関係が続いている。美容院や行きつけの場へは、家族と協力しながら対応している。また利用者様が会いたい方がいた際は、ご家族に伝え面会の調整をしてもらっている。	自発的な交流意欲が低下した利用者の意思を尊重しながらも、旧知の友人との継続的な交流支援を行っている。旧職で教員をしていた利用者が卒業生の訪問を受けたり、家族の協力を得ながら、馴染みの場の訪問を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者間でレク体操、野菜作りを一緒に行う事で、話がなかなかできない方でも、顔なじみとなり交流している。誕生日会のお祝いも一緒に		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・死亡退所した方は、初盆にお参りしている。又は、ご家族からもホームへの来所され近況の報告がある。 ・老健へ入所した方は、訪問し生活状況の把握をしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用開始前の状況や思いを家族・本人・関係機関より聞き取り、プランを作成している。入居後も本人と接しながらアセスメントを行い、思いや意向を把握している。またケアカンファレンスにご本人様なるべく同席していただき希望・意見をいただいている。 ・日々の関わりの中で、声かけを行い把握できるように努めている。意思疎通困難者の方は、本人の表情や家族の意見を参考に検討している。	半年に1度、家族の協力を得ながらアセスメントを取っている。利用者から発信された思いや意向、把握が困難な利用者からも、日常の支援の中から思いを得るように努め、詳細に記録し、職員間で共有されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人や家族と話すことで把握に努めている。また、日々の何気ない発言からも、これまでの生活等を推測して、スタッフ間で情報を共有している。それを生活の中で活かさないか、その都度、スタッフ間で検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居時は、3週間の暫定プランを作成し、再度モニタリングをして家族や本人の思いを反映したプランを作成している。6カ月ごとにカンファレンスをして職員・家族からも意見や要望を聞きとり反映している。 ・入所期間の長い利用者に関しては、生活リズムの把握は行えており尊重できている。 ・今までできていた事が、できなくなっていた際、本人のプライドを傷つけてしまう恐れがある為、慎重に把握するように努めている。 ・不安の強い利用者に対しては、寄り添うケアを行い不安の解消に努めている。 ・毎日、スタッフ間で、利用者の一月の状況変化の情報を共有し、利用者が過ごしやすいよう、その都度検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人の意思・要望を取り入れ、それを支援する介護計画を作成している。ただ発語困難な利用者様もいらっしゃる為、その時はご家族に聞き取りを行っている。毎朝、情報伝達を行い、スタッフでその都度支援の方法を話し合っている。	丁寧に取り入れたアセスメントをもとに、利用者・家族の意向が取り入れられた介護計画が作成されている。個々の短期目標には、利用者の思いをくみ取った目標があげられ、詳細な日々の支援方法や着目点について記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子を記録し、利用者様に変化がある時はその都度スタッフ間で検討を行いケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者の髪が伸びている時は、ご家族様に話し訪問理容を提案したり、行事等ある時はボランティアサービスも利用し希望に沿える様努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域とのより良い協働が出来るよう日々検討している。 ・行事の際は、チラシ等を配り、地域の方達に呼びかけを行っている。 ・地域の祭りにも参加しており、今後も小学校の運動会や音楽会に参加予定である(見学)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・地域のかかりつけ医が協力して立ち上げた事業所なので、協力医と連携していることが安心を求めて利用する方もいる。家族・医療機関・看護師と連携して情報を共有している。訪問診療やかかりつけ医の立ち寄りも頻繁である。	事業所利用開始前からの掛かりつけ医の継続診療が行われている。複数の掛かりつけ医が訪問診療体制を取っており、通院が困難となっても変わらない医療支援が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・常勤で看護師2名が勤務している。介護職は利用者に状態変化があった際、その都度報告し指示を受けたりと連携して対応している。 ・また看護師は、夜間帯も介護職から連絡を受け、かかりつけ医から指示を受けたりと迅速な対応を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した利用者が負担なく戻ってこれるように、退院前情報交換を行っている。 ・必要時には、適切な医療機関を紹介している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に医療内容やホームとして出来る事、できない事の説明をして納得した上で契約をしている。看取り指針や医療体制も整い、毎日の往診で体調管理や見守りができている。利用者の状態が重度化する前に、ご家族に説明して対応の方向性を決めるようにしている。	家族の希望があれば看取りを含めた重度化支援が行われている。掛かりつけ医や看護師、介護・看護職員間での情報の共有、支援がはかられ、夜間は、隣接する老人保健施設看護師の協力体制も構築されており、複数の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・消防署の協力を得て、救急救命法に勉強会を年1回以上実施している。 ・緊急時対応マニュアルを作成し、誰にでも見れる位置に掲示している。 ・月1回 会議を行い、状況に合わせて対応に対して意見を出し合い検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、定期的にシミュレーション、ユニットを変えた避難訓練を行っている。消防署立ち合いの元、指導を受け、訓練内容改善の改善を行い、訓練を行っている。 ・家族から避難訓練に参加したいと希望を受け具体的な計画検討予定。 	火災や地震を想定した避難や身の安全を守る訓練を行っている。特に火災は放火等を想定し、毎回、出火場所を変えての避難誘導訓練が行われている。年に1度消防署立ち合いの下の訓練、3カ月に1度の法人合同訓練を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護や権利擁護など人権を含めた研修を行い、家族と一緒に認知症の理解と尊重した接し方など学んでいる。こだわりのある方に対しても尊重した対応をしている。 ・援助を行う際、利用者が自己決定しやすいよう声かけを行っている。 	加齢や認知症の進行によって、出来ていたことが出来なくなり、気力の低下や落ち込みがみられる利用者には、職員間で話し合い、気分転換や気晴らしなど寄り添う対応を行うなど、自尊心を守る支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の性格に合った声かけを行っているが、利用者様によっては発語困難な方が何名かいらっしゃる為、その都度、表情の変化を見ながらケアを行っている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り利用者一人一人のペースで過ごして頂くよう努めてはいるが、入浴など時間が決められていることもあり、職員の用事を優先してしまうこともある。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様により、毎朝 化粧水・乳液を塗ったり、男性利用者様は髭剃りをされたりなど、それぞれに合った身だしなみで整えられている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・厨房から出されるメニューを利用者様によって形態を変え食べやすいようにすることで、ゆっくり食事ができている。利用者様の希望によって、紅茶・ココア・オノナミンC・アケリアスなど好みが違う為、その都度、ご家族様に連絡し持参して頂いている。	朝食は事業所で準備し、昼食・夕食は老人保健施設厨房で準備されている。刻み食などは、利用者の咀嚼状況に合わせて事業所厨房で刻まれている。居室に嗜好品を置く利用者や、職員が預かり、おやつ時間に楽しむ利用者もいる。皆でホットケーキなどの手作りおやつを楽しむ機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの体調と、一日の摂取量の把握に努めている。必要時かかりつけ医の指示を受け、水分量の調整、過剰摂取にならないよう調整している。本人の状態に合わせて、コーヒー・紅茶・ジュース、栄養補助食品等を持参して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後に声かけや、必要時見守り又は全介助にて各居室の洗面台にて口腔ケアのチェック表を確認しながら必ず行っている。 ・本人の了解を得て、夜間帯 義歯を洗浄剤につけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・利用者ができる限りトイレにて排泄をして頂く為、必要時は2名にて介助を行っている。トイレでの排泄ができない方にはテナ交換時に陰洗も行っている。夜間トイレを希望される方には介助を行います。睡眠を優先させる為テナを使用される方もいます。	日中はトイレでの排泄に心がけ、転倒や骨折リスクのある利用者も、複数の職員での対応や工夫により安全な排泄支援を行っている。夜間帯は、安眠を重視しオムツやパッドなどの工夫が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄チェック表にて、排泄パターンを確認し、利用者の状態に応じて1日毎、2日毎、3日毎にて座薬・内服を使用し対応している。便秘にならない様、十分な水分補給や必要時は腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週3回ユニット内で交代で入浴し、希望すれば毎日入浴可能である。車椅子利用者も機械浴で気軽に入浴でき、重度化した場合も清潔を保持できる準備がされている。入浴日は、本人の希望の曜日を聞き入浴して頂いている。	週3回の入浴を基本としているが、希望により多く入浴する利用者もいる。利用者の居室カレンダーに個々の入浴日に印を付けてスムーズな入浴に繋げる工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間は、みなさん良眠されている。 ・日中は起きてレク等の活動していただいている。生活リズムが乱れ、夜間眠れない方がいた際は、かかりつけ医のアドバイスを受け、日中、日光浴等をしていただき、生活リズムを整えていただいている。 ・また、寝付けない方への対応・方法も、スタッフ間で見直し検討を行い、ストレスなく眠れるよう配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・利用者が使用している薬の目的、副作用などは常にファイルに閉じており、職員全員が確認できるようにしている。必要時は看護師に確認している。利用者様の状態が見られる時は看護師・かかりつけ医師している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・能力的に厳しくても本人の気持ちを配慮しスタッフが支援することで役割を持って過ごして頂いています。日々、利用者様との会話の中から新たな役割を見つけられるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ほぼ毎月 行事等で外出する機会を作っている。行き先も、家族・ご利用者様にアンケートを取り、できるだけ反映できるよう検討を行っている。 ・日々の生活の中でも、散歩・テラスでの日光浴・庭の花の水やり等、日常的な外出の機会を増やせるよう検討を行っている。	デイケアの車を利用しての集団外出支援が行われており、気候の良い時期には外気浴を兼ねて職員と散歩を楽しんでいる。共有空間の広いテラスを活用した外気浴も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望される方はご家族にお願いし、持ってきて頂いている。お金は事務所で預かり、行事や散髪の時、本人に渡して払ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者様も電話番号を覚えていない方も多い為、スタッフがご家族の方に電話をかけ本人が話せるように支援している。手紙が届いた際、本人が読んで欲しいと希望された時は代読をお行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・天井が高く平屋造りでゆったりとして、くつろげる空間である。職員の特技を生かした手づくりの飾りや、季節を感じる花のアレンジや鉢植えを配置し潤いがある。光全体に差し込み明るく、眩しくないよう適宜調整に配慮している。・共同のホールには、季節毎に飾り付けを行っている。・トイレは、流す事ができない人達に対しては職員が確認し、その都度清掃し次の方が気持ちよくいけるよう心がけている。	明るく開放的な共有空間は、消防署職員から地震の揺れにも問題がないといわれており、食卓を中心に利用者が思い思いの場で過ごすことが出来ている。食卓は、利用者同士の関係に配慮し、ストレスを感じることなく過ごせるよう座席を決めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者様、ご家族様2~3人でソファに座り、テレビを見たり、時には話しをしたりしながら過ごされたり、居室で音楽を聴いたり、テレビを見て過ごされたり皆様が自分のペースで過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・どの部屋からも季節折々の景色が眺められ、テレビやソファ、鏡台など持ち込み、好きな本を並べて生活を楽しんでいる。入所時にご家族と検討し、本人にとって馴染みの物や愛着のあるアルバムやお気に入りの椅子など家族との思い出も大切にしている。	入居時には、家族に馴染みの物や使い慣れた物の持ち込みを依頼している。居室は安全面に配慮して、利用者の動線に物を置かず、臥床状況の利用者のベッド脇にはマットレスを敷くなどの工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自立した生活が行える様、事故に繋がりそうな行為があった場合はスタッフが検討し、安全に過ごして頂けるよう配慮している。		